

# 希望を叶えてくれた環境

長野県立こども病院 外科 笠井 智子

ストレート入局の時代に、私は医師としての人生をスタートさせました。将来的には小児外科を専門にしたいと考え、小児外科も扱っている出身校の鳥取大学第一外科（現 器官制御外科学講座）に入局しました。3年間の一般的な外科研修を終えたのち、小児外科専門医の取得を目指して、小児病院での3年間の国内留学を医局に希望しました。すると、医局は快くその希望を受け入れてくれました。兵庫県立こども病院で1年間、神奈川県立こども医療センターで2年間の小児外科研修を終えて、無事に小児外科専門医を取得し、鳥取大学に戻りました。その後は大学院生として、臨床と研究に取り組みました。おそらく医局は、「これから笠井は、小児外科分野で頑張ってくれるだろう」と期待してくれていたのではないかと思いますし、実際、頑張らないといけない立場でした。しかし、その矢先に現在勤務している長野県立こども病院の先生から、小児外科研修のお誘いをいただきました。この時は医局の多くの先生方に相談し、色々なお話を聞きながら悩んだ末に、長野県立こども病院へ行くことを決意しました。その思いを医局に伝えたところ、また希望を聞き入れてくれました。医局の先生方には本当に感謝しかありません。

長野県立こども病院では研修を経て、スタッフとして勤務するようになりました。勤務から約5年が経とうとしていた頃、今度は「海外の病院を見学してみたい」という新たな希望を持つようになりました。その思いを院長先生や小児外科の先生方に伝えたところ、快く受け入れていただき、シンガポールで半年間の研修を行う機会を得ました。その半年間は、病棟業務、手術、外来業務すべてを他の小児外科スタッフがカバーしてくれました。本当にありがとうございました。

そして次第に、これまで仕事一筋だった私も、ワークライフ・インテグレーションを意識するようになり、以前からずっと望んでいた「結婚」や「子どもをもつ」という人生の夢をより強く意識するようになりました。「どれだけ希望を持てば気が済むのか！」と言われそうですが、その夢を叶えるために不妊治療を受けたいという思いを小児外科のメンバーに伝えると、この時も「頑張って！」と温かく背中を押してもらいました。その後、子どもをもつという夢は叶いませんでしたが、納得のいく形で不妊治療を終えることができました。こうしてこれまでの医者人生を振り返ってみると、本当にたくさんの「希望」、あるいは「わがまま」を、周囲のスタッフが何度も受け入れて、応援してくれたおかげで実現することができました。自分の希望を通して、周囲のスタッフには大きな負担をかけてしましましたが、得たものはとても大きく、このことに感謝しながら、これからは私が、周りのスタッフの希望や夢を応援する番だと考えています。

[著者略歴] 筱井 智子（かさい ともこ）

島根県出身

2002年 鳥取大学医学部卒業 鳥取大学附属病院

2004年 済生会江津総合病院

2005年 兵庫県立こども病院

2006年 神奈川県立こども医療センター

2008年 鳥取大学附属病院

2012年 鳥取大学医学部大学院 卒業

2012年～長野県立こども病院

外科学会専門医、周産期・新生児医学会認定外科医、小児外科学会専門医・指導医、内視鏡外科学会技術認定医、日本がん治療認定医、小児がん認定外科医

～DEI 推進委員会より～

何事にも意欲的に取り組む姿勢が周囲からの協力を生み出す

ストレート入局時代は今ほど DEI について意識されることはなく、女性外科医は外科内での女性の壁にも立ち向かいながら仕事に邁進する日々でした。必死になればなるほど孤立し消耗する危険性も秘めていたと思いますが、周囲に相談し、感謝しながら意欲的に研鑽する姿勢が、また次のステップアップに繋がっています。メッセージから、自らの経験が活かされますようにという温かい気持ち、願いが伝わってきます。次の世代がワークライフ・インテグレーションを充実させられるようにその応援もしていきたいという良い循環が形成されていると感じました。

責任編集  
DEI 推進委員会